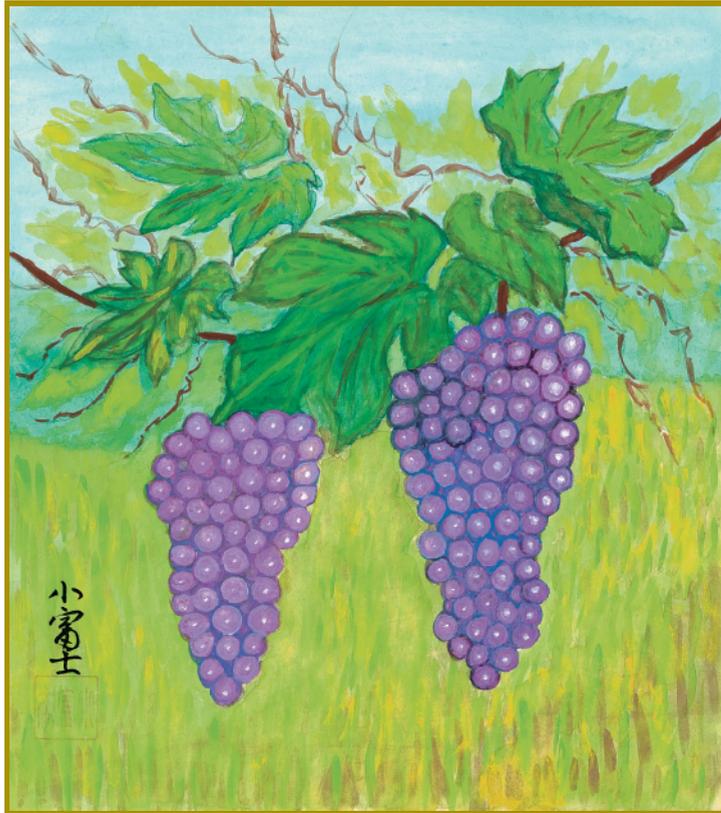


新 生

ぶどう二房 お乳のように ぶら下がり 小富士



東北新生園入所者自治会

平成二十三年九月 十日印刷
平成二十三年九月 二十日発行

新生第六十三巻 第三号

新 生

平成二十三年九月 十日印刷
平成二十三年九月 二十日発行

第六十三巻 第三号

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地 (仙台市より北方60km)		
土地面積	351,291㎡		
建物延面積	25,280㎡		
開園	昭和14年10月27日		
医療法承認病床	266床		
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科		
現在入所者数	男57名	女62名	計119名
職員定員数	153名		
園長	医学博士	横田	隆

東北新生園交通案内図





新生・第六十三卷第三号……………目次

表紙…「ブドウ（豊穣の秋）」……………桃生 小富士
 大震災とセンターの新しい診療体制……………園 長・横 田 隆…(2)
 随筆「北に帰った靴」……………今 野 きよし…(21)

|| 新 生 文 芸 ||

詩……………選 者…佐々木 洋一…(24)
 短 歌……………選 者…長 田 雅 道…(25)
 俳 句……………選 者…山 田 桃 晃…(27)
 川 柳……………選 者…栗 石 隆 子…(29)
 自己紹介と金成について……………看 護 師…藤 由美子…(31)
 私の看護計画……………看 護 師…菅 原 雅 子…(33)
 自己紹介……………看 護 師…浅 野 明 子…(35)
 わ・す・れ・な・い……………看 護 師…小 出 法 子…(36)
 私の好きな事と自己紹介……………看 護 師…石 川 正 子…(38)
 はじめまして……………看 護 師…星 川 よしえ…(40)
 まじめまして……………看 護 師…相 模 夕 貴…(42)
 園内口誌 謝寄贈図書……………

大震災とセンターの新しい診療体制

園長 横田 隆

東日本大震災から時が経ち、物流なども以前の状況になりつつあります。地震活動は依然として活発に続いているようで、震度3、4の揺れは頻繁に起こっており、津波注意報も時々出されています。今回の震災では当園の備えに不備があり、いろいろと考えさせられることがありました。それらの点を将来に繋げるべく、反省を踏まえて記載してみましたと思います。そして、ありがたかったこと、感謝したい出来事も多く、それらについて

でも記載してみます。

また、震災の緊急事態の中で、治療棟を閉鎖しましたが、センターの新しい診療体制とどのように繋がるか：医療体制をより強固にする以前の計画の実現に関係して来ますので、これらについてもお話ししたいと思っております。

地震に際して、印象に残ったことについて以下に箇条書きに記載します。

① ラジオを聴く習慣を

三月十一日の地震があった直後、体験したことのない揺れであり、このまま建物が崩れるのではという恐怖もあり、手すりを伝わってようやく外に出ました。外に出るまでに少しの時間はかかりましたが、まだ大地は地鳴りを発して揺れ続けていました。センター方向に向かって早歩きで行きましたが、異様な事が起こったという気持ちで、鼓動は高鳴りました。一般寮も含めて入所者には人的な被害はなく、とりあえずはホッとしたのですが、停電の中、建物、設備の被害の状況把握などをしていくうちに、数時間が経過、自家発電でテレビを見たのがずいぶん遅い時間となりました。テレビからは、気仙沼や南三陸などの県内の慣れ親しんだ市町村が「津波により壊滅的被害…」と報道されていました。当園の何人かの職員の実家、嫁ぎ先の実家など

が沿岸沿いにあることを承知していましたので、報道を聞かないでいたのは迂闊でした。地震早期にラジオで何が起こったのかを把握しておくべきでした。若い頃からつまみでチャンネルを合わせるラジオに違和感があり、使ったこともなかったのですが、このような災害時には電池で動くラジオで情報をいち早く得ることが必要であると痛感しました。

② 自家発電は分割して

地震後にすぐに停電となったために、自家発電機を起動させました。なかでも病棟・不自由者棟四棟、管理棟の自家発電機はジェット旅客機のエンジンと同じガスタービン方式のため、燃料の軽油の消費が激しく、一時間で軽油を100リットルも使います。パソコンの電源、固定電話の充電の電源などは別個の発電機で行われるべきだと思いました。特

に固定電話は、しばらく電気が通電していないと充電が尽きてしまい、使用不能になってしまいます。そのためだけに、自家発電機を回す必要があります、非常に非効率的でした。これは燃料の無駄であり、是非とも改善しないといけないということで、用途に応じた小型発電機を震災後に購入しております。

インターネットやメールのための電源も別個であるべきで、震災後の情報収集や本省との連絡にはパソコンの電源も欠かせません。

③ 頼りにならない携帯電話

地震直後、数時間は携帯電話は通じておりましたが、時間の経過とともに、一切、通じなくなりました。携帯電話会社が回線を維持するために、制限をかけたものと説明されましたが、このような時に通じない電話など何の意味もありません。固定電話も充電がされ

ているのに、しばらくの間、外部には全く通じなくなりました。本省への電話連絡もしばらく出来ず、本省からの連絡も受信することが出来ませんでした。本省はこの間、非常に心配してくれて、のちにお見舞いかねて視察に来て下さった古川管理室長・福原政策医療推進官・江口管理室長補佐からは、「新生園に電話が全く通じないので、地震で建物が崩れたのではないかと案じていた…」との言葉があり、大変恐縮したものでした。

このような災害時に通じると言われる衛星電話を備えましたので、今後は電話連絡で逐一報告が出来ると考えております。

④ 燃料の確保

軽油、ガソリンの確保にはとことん悩まされました。先に記したように、自家発電機で大量の軽油がいる、入所者の委託診療には自

動車のガソリンが必要、という状態で、この二つの燃料が地震直後から手に入らない状況になりました。津波で沿岸部の製油所が被災し、タンクローリー車も流されてしまったためでした。

軽油に関しては、今まで園と取引のあった業者、近隣の農家、職員、知り合いなど、あらゆる伝をたどって入手を試みました。軽油はその日、次の日の自家発電機のためにどれだけ入手出来たか：が最大の関心事になりました。ガスタービン方式の自家発電機は、一日に三〜四時間の計画通電をするのが精一杯の量しか確保出来ないのです、その日暮らしの対応しか出来ませんでした。そのために、入所者には通電中に食堂でテレビを見てもらった。災害の状況を知ってもらうことにしました。

ガソリンに至っては軽油よりも状況は悪く、

地震後、三週間ほど、ガソリンスタンドに長蛇の列が出来、ガソリンを求める車で溢れかえりました。当園職員も、準夜が終わって夜中の一時頃にガソリンスタンドに並び、やっと20リットルのガソリンを入れることが出来たのが夕方の四時頃、ということもざらにありました。そのため、出来るだけ車を使わないように、泊まり込みしてくれた職員も多くいて、大変ありがたい思いをしたものでした。自転車で何十キロも往復してくれた猛者もいて、頭が下がりました。

A重油も震災後二ヶ月間、入手が困難となり、入所者の入浴も大幅に制限して我慢してもらいました。

このような状況で、今後の対策ですが、なかなか難しいところですが、多くの燃料を備蓄したいところですが、危険物取り扱いの指定があり、大量の燃料を置いておくわけにはい

きません。また、燃料は劣化しますので、何年も置けるといふものではないようです。このあたりが今後の課題ですが、取りあえずは備蓄できる最大の量を常に用意しておいて：ということに尽きるような気がします。緊急時の燃料確保については、今後も本省にも知恵をお借りしたいと思っております。

⑤ 食料の確保

地震直後より物流がストップし、いつもの業者からの搬入が期待出来なくなりました。納入業者のほとんどが仙台からのためです。三日間は非常食で入所者には我慢していただきます。おにぎり二個と具なし味噌汁ということもあり、申し訳ない気持ちでしたが、このおにぎりが五目ご飯で、かなり美味かったのが印象的でした。私も震災後十日間、当直をしておりますので、入所者と同じ食事

をしておりました。以前のメニューを大幅に変更しての食事はかなり悪くなった：と、心の中で申し訳なく思っております。

米は幸いなことに入手出来ましたし、水は井戸で、濾過には電気を使いますが、これは自家発電で対処することにして、取りあえずは乗り切れるか：と思っております。このようなときに備えて、緊急時に食物を手配してくれたり、融通してくれたりする業者と知り合いになっておくべきと思いましたが、現在の地域の状況からは、なかなかそのような業者と関係を持つのがむずかしいようです。

このあたりのことは今後の課題で、何とか食料の調達を緊急時にスムーズに行えるシステムを作りたいと思っております。

この対処としては、井戸に何かあったときのために、飲料水の確保、非常食の再検討などを行っているところです。

⑥ 常勤医一人では

地震直後から在来線、新幹線は不通、高速道路は閉鎖、一般道も何力所で交通止め、橋が落ちたところもあり、仙台との交通が遮断されたため、医師の応援も停止しました。これは長期戦になるか：と覚悟していました。が、健康上の不安もあり、たまに通じるメールで、「自分に何かあれば、本省が責任を持つて私の代わりの医師を派遣して欲しい：」みたいなことを本省に送りました。私は文の末尾に何気なく書いたのですが、本省としては本気で心配してくれて、別の部署より電話があり、医師派遣について質問されました。

「医師の派遣を希望していると聞きましたか：」「はい、もし誰かいれば：今、一人なものですから、手伝ってくれるドクターがいればありがたいです」

「日本語が出来なくてもいいですか？」

「は？」

「日本人のドクターは今はおりません、今は外国から来た医師がいます、よければ行ってもらいます。」

「日本語は？」

「全然出来ない：」

というわけで、早速自治会に行き、久保会長に相談すると

「うーん：」とうなった後で、「うちは日本語でも、標準語もままならないからねえ：」と嘆息されました。それで二人で顔を見合わせ大笑い。

せっかく新生園の医療が国際化されるという機会を逸しましたが、本省には丁重にお断りした次第です。

このような交通が遮断されて医師の応援がない状態の時を考えると常勤医一人というのでは心許ないと思われます。何とか今後、常

勤医をもう一人いてもらうように努力しないといけないと思われました。

⑦ 頼りになる自衛隊

震災後十日目に軽油とガソリンが底を尽きかけ、もはやこれまでか…と思ったときに、自衛隊より連絡があり、軽油の補給に新生園に行くとの連絡がありました。朝、福祉室に電話があり、その時私が電話に出たので、これはダメ元でガソリンもお願いしますと言うと、ガソリンですか：ちよっと探してみます…とのこと。これは希望が持てるか…と思いました。ついでにA重油も不足していたので、A重油もお願いしますと言ったところ、重油はないです、それは確か、と言われました。

午後に先導のジープとトラックが来て、ドラム缶で軽油とガソリンを置いて行ってくれましたが、あの時ほど自衛隊の姿をありがた

く思ったことはありません。これで一息つける・入所者の委託治療にもガソリン車で送迎出来るとホッとしたものでした。隊員一人ひとりと握手し、敬礼して車を見送りました。日本国に自衛隊がいてくれて本当によかった…と思ったものでした。何かお礼が出来ないか考えておりましたが、当園看護課の有志が自衛隊員に飲み物の差し入れや、炊き出しを自発的にしてくれていたということを、私は後から聞いて、大層感激しました。私がしなければならぬことを職員がやってくれて：先を越されてしまったと思うとともに、真心のある職員に恵まれたものだとありがたく、誇らしい気持ちも感じました。

⑧ 乾電池と盲人会

停電に伴って、乾電池を使うことが多くなりましたが、近隣の店からは電池の需要が高

まり、手に入らなくなりました。当園でも必要数が足りなくなり、何とかしないと…という事態になりました。「電池、電池…」と考えながら、夜回診でセンターに行ったとき、ある看護師より、「盲人会に相談したら…」と囁かれました。すぐにピンと来て、すぐに盲人会会長の所にお問い合わせに行きました。カセットデッキに使う電池を備蓄しているかもしれないと思ったからです。盲人会会長よりは、事態を納得、理解されて承諾を得ましたので、早速大きな袋を持って、会員の所を回りました。みんな快く電池を提供してくれ、電池問題を乗り切ることが出来ました。盲人会には心より感謝です。

乾電池はその後数週間、店などでも手に入りにくく、「一人一個のみ」などという制限で売られていました。日頃の備蓄の重要性を身にしました次第です。

⑨ 機敏な本省職員

地震が起きる前の日から、本省の職員三名が建物関係の監査に来ており、ちょうど本省にもどる日に地震に遭遇しました。新幹線は線路沿いの柱が逆V字に折れ曲がり、不通となり、東北道も閉鎖となりました。どこにも行くことが出来ないのです、園内にて非常食で我慢していただき、職員休憩室に布団を敷いて泊まっていたいただきました。いつまで続かわからない状況に、私などは事務長に、「出向の形で当園で働いていただいたらどうだろう…」などとのんびりしたことを考えておりましたが、本省職員は脱出の方法をいろいろ考えていたようでした。地震三日目に、園内で使用している自転車で、新幹線駅周囲の状況を視察、当分新幹線は動かないと判断すると、レンタカー屋で車を一台借りて、自転車はその場で乗り捨て、当園にもどってきました。

車から降りてきて言うには、今から三人で山形に向かう、と。山形から飛行機に乗ればそれで東京に行くし、乗れなければレンタカーで東京を目指すというものでした。計画の緻密さ、大胆さ、行動の俊敏なこと、私はただただ驚いておりました。乗り捨てた自転車はあとで園で回収してほしいとのこと。そういう残すと、三人を乗せた車は園をあとにしたのでした。

あとで聞くと、山形では飛行機には乗れず、会津を通り、放射線や地震の影響を最小限にしながら、経路を選び、その日のうちに東京に着いたとのこと、その迅速な行動力に舌を巻いたものでした。

このような判断力、行動力を持った本省の方々にはまた、新生園を助けていただければ…と心から思いました。

ことも出来ずに、かける言葉もなく…非常に不甲斐ない思いをしておりました。このような状況下で仕事を続けてくれた職員には本当に頭が下がります。

軽油の調達には、その日その日で係の人に走ってもらいましたが、現在の軽油量、ガソリン量をボードに書いて、泊まっている職員で意識を共有しました。自家発電機のための軽油の給油が三時間ごとに必要なため、当番を作ってやってもらいましたが、これは職種を超えてやってもらいました。給油しないっていると、通電が止まり、ナースコールや園内の電話、井戸水など、診療に不可欠なものが使えなくなります。このため、真夜中でも休むことなく給油を続けてもらいました。

薬剤師の物流も止まりましたが、当園の若い薬剤師の活躍により、製薬会社を自分で回り、必要物品を取得し、足りない分は近隣の病院

⑩ 泊まり込み部隊に感謝

地震後の一週間、多くの職員が泊まり込みで様々な難題に対処してくれました。職員の中には実家が津波の被害を受けた人も数名おり、家族の安否の確認も出来ないまま、仕事を続けてくれました。電話は通じず、交通手段もなく、ガソリンが手に入らないために、何度も実家を往復することも出来なかったのです。ある職員の家は津波のために滅茶苦茶になっていて、二階に乗用車が突き刺さっているような状態で、家族は避難場所にもおらず、どこに行ったのかもわからない状態でした。そのような状況でも、当直業務を勤めてくれました。実家が津波で流されて崩壊したり、被災地の子供と連絡が取れないまま、当直したり、準夜深夜業務をしてくれた職員がおりました。私もそのような話を聞き、何とかしてやりたいとは思いましたが、どうする

にお願いし、こちらが余裕のあるものは提供し…という俊敏な動きで事なきを得ました。缶工場が被災したため、エンシユア・リキッドが近隣の病院では手に入りませんでした。当園においては、薬剤師の動きで迅速手配し、全く問題なく、入所者に提供し続けることが出来ましたので、非常によかったです。思っております。

それにしても今思ったのは、このような危機的な時に、どんどん元気になり、陽気になる職員がいることです。これは誠にありがたい…こちらが明日はどうなるだろう…と暗い気持ちでいるところに、「まあ、何とかやるんじゃない」式にあちこち飛び回ってくれるのは、勇気づけられたものでした。これは救急医療にも同じ事が言えて、以前、救急病院に勤務していたとき、救急患者が立て続いたときなどは、暗い気持ちになるのは御法度



写真1：寛仁親王殿下が新生園に来られて、入所者にお言葉をかけて下さった。

で、陽気に冗談が出るくらいでないといけな
いと言われたものでした。大晦日に臨時手術
が三つ続いたときは、三つめの手術中は、「紅
白まで終わるよー」とかけ声をかけながら
やった：そんなこともありまして。今回は、
そのような陽気な泊まり込み部隊に助けられ
ました。

今回の震災後の陣頭指揮を執ったのは、事
務長でしたが、以前より平時から「日々危機
管理」的な仕事をしておりましたので、全く
スタイルは変わることなくやってくれました
た。細かい決裁まで真夜中にやっていました
ので、大きい問題ではないことは福祉当直に
任せて、事務長には夜中は休んでほしいと直
接言ったものでした。細く長くやってほしい
と思ったからです。また、泊まり込み部隊が
何日か続くと、運動部の合宿の様相を呈して
きましたが、事務長補佐は炊き出し係をやっ

てくれて、合宿所の「おばちゃん」（失礼）
のように活躍してくれました。このほか、会
計、施設管理、福祉、庶務、営繕、作業手など、
よくやってくれたと思っております。

以上、思いつくことを箇条書きに述べまし
た。他にも書くべき事があったかもしれませ
んが、今回の教訓は多々あり、具体的な対策
は手に入る物から、出来るところから徐々に
やっているところです。

今回の震災では、宮城県、登米市には多く
の援助をお願いしました。ここにお礼を述べ
たいと思います。また、多くの方々からお見
舞いをいただきました。合わせて感謝申し上
げたいと思います。

寛仁親王殿下のお付きの方よりお見舞いの
お電話をいただきましたが、殿下が大変、新
生園の事を案じておられるとのこと、何かい

るものはないか：と仰せとのこと。早速、当
園の窮状をお伝えしようとすると、お付きの
方より、「殿下は、軽油がない、ガソリンが
ないと言われてもあげられないよ」とおっ
しゃっておられます」と言われ、思わず吹き
出してしまいました。殿下はこちらの事情を
よくわかっておいでで、かえって私は非常に
ありがたかったし、一番の励ましとなりました。
燃料は園長が頑張って集めなさい、頑張
りなさい、というふうに聞こえたのです。

後に殿下は当園にお見舞いにお成りにな
り、入所者一人一人に声をかけて下さいまし
た（写真1）。



—施設を視察される殿下—

私が、地震で出来た壁のヒビや倒れた看板などをご覧にいれると、手を横に振って、「ああ、たいしたことないよ」と通り過ぎてしまわれました。これも殿下独特のお励ましと感じた次第です。

幼稚園から高校まで同期で、芥川賞を取った作家・保坂和志君からのメールを引用して、この項を終えたいと思います。

混乱のときにメールするのを遠慮していましたが、とにかく、横田の無事を信じています。いまは大変な激務に追われていると想像しています。東京からは義援金を送ることぐらいしかできませんが、朝日新聞に、神戸で被災した精神科の中井久夫さんが、「被災者は忘れられることが一番つらい」と書いていました。可能な限り「忘れていない」というメッセージを、いろいろな形で書いていこうと思います。からだに気をつけてください。保坂和志

センターの新しい医療体制について

震災の対応について、長々と書いてきましたが、ここでセンターの新しい医療体制についてお話ししたいと思います。これは震災の対応と無関係ではないので、流れるなものを理解していただくために、震災のことは前段階として記載しました。

今までの医療体制は、内科、外科などに受診したい入所者は、センターから治療棟に来ていただいで、そこで医師による診察を受けてもらっております。これは不自由者棟の看護体制が、一つの寮において看護師が一人か二人勤務、その他は看護助手が十数名で看護と介護をしていたところから、続けられてい

たものです。

三、四年前より、第一メールケアセンター（三階建て不自由者棟）と第二メールケアセンター（二階建て不自由者棟）に入所者を集約することが出来、同時に職員も集約することが出来ました（写真2 a, b）。このため、不自由者棟にて、看護師の受け持ち制をとることが可能となりました。看護師が受け持ち制になった後も、治療を受けるときは、治療棟に入所者を看護師か看護助手が送っていき、治療棟にて処方や処置を受け、終わるとセンターから迎えに行く、そして治療内容は治療棟からセンターにファックスで知らせ



写真 2 a：(左) 第一メープルケアセンター
(右) 第二メープルケアセンター

る、というシステムでやっておりました。受け持ち看護師が入所者の治療内容に濃く立ち会うことが出来ない体制を何とか出来ないも

りました。具体的には医師がセンターに往診ではなく、回診の形で訪れ、センターにて診断し、その場で処方や処置を行うものです。これには解決しなければならぬ問題があり、たとえば処方のおーダリングの機械をセンターに入れないといけないし、治療棟に置いてあるカルテも各科を一冊にまとめなければならぬなど、あとは入所者の理解も得ないといけないことでした。大きな改革ではありませんが、定着して軌道に乗れば、入所者にとっては計り知れない利点があるものと思っておりますが、あまりに大改革のため、遅延として進まない状態が続いております。そこに今回の震災があり、治療棟を閉鎖して、診療は医師が各センターを訪問して行うということになりました。地震後は五日間の停電もありましたし、通勤出来ない職員もあり、治療棟の職員を必要な職場に割りあて



写真 2 b：第一メープルケアセンター
ナースステーション

のか、受け持ち看護師が入所者の治療の介助をして、治療内容を把握することは、入所者のための医療体制の強化に繋がると考えてお

こともしないといけませんでした。さらに放射能の問題もあり、当時は危険はないようなことが言われておりましたが、核実験のあとは傘をさして歩こう…という子供の頃の教育も頭をかすめましたので、出来るだけ入所者には移動をしないように、外には出ないようにということで、治療棟の閉鎖をお願いしたところでした。

この機に前々から考えていたセンターの医療改革を行えるのではないかと考えました。センターへ処方のおーダリングを整備する予算はちょうど通っております(写真3)。すべての科のカルテをまとめる作業も少し前から計画されておりましたので、この機会に行い、カルテは入所者がいるセンターに置く、医師が回診して受け持ちの看護師が介助する、言わばセンターの「病棟化」を行える機会と思われました。震災というピンチを

④ 医師がセンター回診することにより、入所者の暮らしているところの問題点を医師の目から気づき、改善することが出来る。

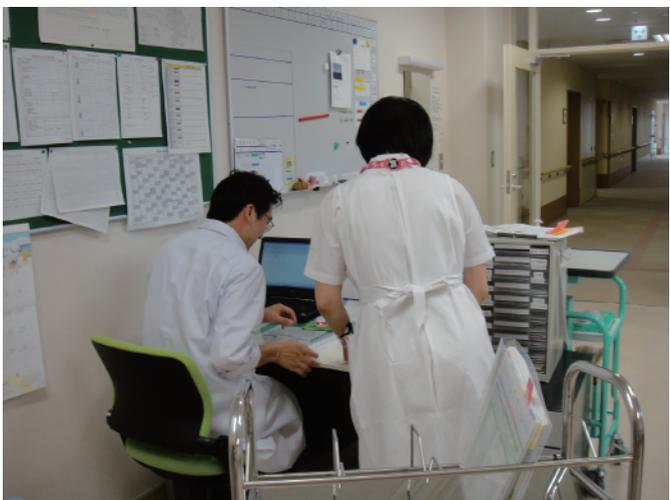


写真4：センターにて医師が回診。看護師が介助。

⑤ 電力不足で当園も前年度の電力消費から削減することが義務となり、治療棟廊下のエアコンを停止することで、何とか削減量を生み出すことが出来るかもしれない。

欠点も考えておかないといけません、今まで治療棟は入所者の出会いの場、会話の場でありましたので、それがなくなることにより、他のことを考えて対処しないといけないと思います。また、治療棟に向かないことにより、活動が制限される、などの心配があります。そのあたりのことは、受け持ちの看護師、看護助手あるいは理学・作業療法士に補うものは何か、を考えていただきたいと思います。機能訓練室ははずれ、リハビリセンターとして新たに建築されますので、その利用もしていただきたいと思います。

チャンスに変えることが出来るのではないかと、当園の医師にも相談して、全面的に協力を得ることが出来るかと判断し、準備期間として四、五月を当て、六月よりセンターを新し



写真3：センターのオーダーリングによる処方(左)と画像システム(右)。第一メープルケアセンターのナースステーションにて。

い医療体制としてスタートすることが出来ました。

今回、新しくしたセンターの医療体制の利点を以下に記載します。

- ① センターの受け持ちの看護師が入所者の病状をより把握出来る。把握した内容を看護記録に記載して、申し送りも充実した内容で出来る。これが第一の目的であり、最大の効果を期待しているところです。
- ② 治療棟までの入所者送迎を大幅に減らすことが出来る。その分、医師が回診に伺います(写真4)。治療棟からセンター、またその逆のファックスによる煩雑な連絡がなくなる。
- ③ 治療棟には、耳鼻咽喉科、歯科などは残りますが、その他は縮小出来るので、職員を必要な職場に配置することが可能になる。

東北新生園の将来構想はまだ混沌としておりますが、このセンターの体制改革は将来にも必ずプラスになると期待しております。将来、職員が減ってきた状態で、効率のよい医療を提供する施設として存続し、センターで独立して医療を完結出来る施設となつて生まれ変わるとは、将来にマイナスになることはないと確信しております。

今、センターでは新しい体制に適した業務改善をしてくれております。これを“混乱”として捉えるか、新しいものを作り出す“試行錯誤”として捉えるかで、ずいぶんと職員の業務に対する気持ちも違つてくるでしょう。この改革はお手本がありませんので、自分たちで作つていくしか方法はありません。センターも三カ所あり、三階建て、二階建てのワンフロアー、平屋の不自由者棟とそれぞれに様相は違います。それぞれに適した体制

作りが求められており、あれこれ工夫したところは是非、記録しておいてその結果がどうだったかも教えていただきたい。そして、それぞれに最適の体制を作ってもらいたいものと期待しております。

今までは全く違う医療体制で大変なところは多々あると思いますが、入所者にとつての医療体制の強化のため、将来のため、職員と一緒に汗をかいていきたいと考えております。

随筆

北に帰った靴

今野きよし

A 息子 B 母

A 母ちゃん、北の方に帰つて行つた魔法の

靴まだ来ないのか？

B なんだつけ？靴つて。

A 魔法の靴、サンタクロース村さ帰つて

行つたつて言つたつてな。

B まだ冬眠から目覚めていないでないか。

A 靴も冬眠するのか。

B そのようだな。

A いつごろ来るの？

B 節分の豆撒きまで来るかもしれない。

A ほんで、もうすぐだね。

B そうだ、すぐ来ると思う。

A 母ちゃんでも分らないのか？

B 分からない。冬眠した靴と話出来ないもの。

A そうだね、母ちゃんも寝た時話しかけて

もダメだったものね。

B 母ちゃんもそんなことあつたのか。

A それで、皆で大声出して騒いだら目覚ま

した。

B 母ちゃんも冬眠したのか？

A 冬眠ではないけれども、眠っていた。

B ほんで今度母ちゃんの冬眠の物語書くか。

A 母ちゃんつて、話ほかの方さ持つて行く

んだから。
B そうか母ちゃん、そんなにほかの方さ話
持って行くのか。
A 鞆帰って来たたら何一番先にするのかな、
母ちゃん。
B 節分の豆撒きだべな。
A 魔法の鞆、どういことやるの？
B 鞆の仕事は、節分に鬼に投げる豆の用意
するんでないか。
A 鞆に入れる豆を煎ったり、入れたりする
のか？
B 豆を煎ったり入れたりするのは母ちゃん
やるんだ。
A ほんだろ、魔法の鞆でなくとも出来るの
でないか？
A とところが違うんだ。鞆に入れた豆は力が
違う。
B 今までの時間は時間がかったべ。
A ほうだね。時間長くかかって、なかなか
鬼逃げなかった。

B 魔法の鞆の豆には力があって、豆ばらば
らと三つか四つ撒いただけですぐ鬼逃げ
て行くんだ。
A 魔法の鞆の豆に、そんなに力があるんだね。
力が違うんだ。びっくりするくらい。
B それでは、その時が楽しみだね。
A そうだな。早く豆撒きの節分が来ないか
な。母ちゃんもわくわくして来た。
B 母ちゃんも子供の頃あったんだね。
A 母ちゃんだつて初めから大人でないもの。
B そうだね、初めつから大人ではおかしいね。
A 良く分かっているな。
B 豆撒き終わったら、それから何あるの？
A 三月三日のひなまつりだね。
B ひなまつりの時も、鞆活躍するかな。
A ひな人形をばつぱつと一晩の中に出来た
らええなと思っている。
B そのひな人形何か変わった事あるの？
A あるかもしれないし、ないかもしれない。

A 母ちゃんも分からないのか？
B その時にならないと分からない。
A 母ちゃんも魔法の鞆に戸惑っているのか？
B それはそうさ。そんなになんでもできる
わけがないもの、世の中には。
A そうだね、人間は普通に暮らして、それ
でええんだね。
B それはそうでなかったら、世の中おかし
くなるべ。
A それは、あの不思議な魔法の話なんだつ
たのかな。
B あれか、母ちゃんがちよつと思いついた
事を語っただけだ。
A それで母ちゃん話面白くして聞かせてく
れたのか。
B そうだ世の中の人はみんなまじめに暮ら
しているのに、母ちゃんがおかしい事
語ってしまったな。
A なんだか母ちゃん。今までと違う国の人
のような気がする。
B そうか。そのように思うか。

A そうだね母ちゃん。今度どんな話きかせ
てくれるのかな。
B これから考えて行く事にする。
A 母ちゃんは、本当に面白い話考えるね。
B そうか、そんなに母ちゃん変わった事語っ
たのか。
A 変わった事と言うか、話面白くしてくれた
と思っている。
B そうか母ちゃんもこれから何か童話でも
作ってみるか。
A それがええね。又何か浮かぶとええね。
B あまり色々な事言うど皆を戸惑わせるか
らな。
A ああ、そういうことになるのかな。
B しっかりした本でも書けば別だけれど
も、母ちゃんの話半端だからな。
A そんなことないと思う。今度もつと違つ
た話聞かせてね。
B そうだな。それにしても魔法の鞆の話、続
きできるとええな。今日はこの位にするか。
—平成二十三年一月十二日記—

詩

佐々木 洋 一選

◇ 入 選 ◇

《桜》

今野 きよし

窓際の
椅子に座って
外眺む
ちらほらと
蕾ほころび
二分咲きに
桜やっぱり

三分咲き

はちきれそうな
真赤に染まり
明日に向かって
希望に満ちた
若者姿

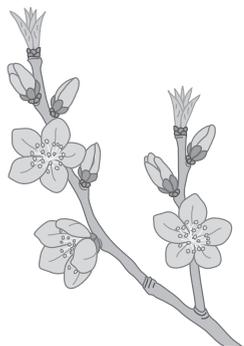
花の余韻を
蓄えて
見ている人の
心の中に
淀みなく
朝日を受けて
輝いた
いつまでも
残しておきたい
三分咲き

【選評】

「桜」

今野 きよし

桜のパツと咲いて、パツと散る潔さが日本人のここをとらえてはなさないのでしょうか。ここでは、三分咲きにとどめておきたいという作者の気持ちだが、「桜やっぱり三分咲き」という表現を通して伝わってきます。



短歌

長田 雅道 選

◇ 入 選 ◇

佐藤 つや子

十歳は我より若きはすなりし高田の海に消えしいとこよ

【選評】

東日本大震災の津波でなくなりたいとこさんを淡々と詠んで心に沁みる一首となつていゝ。悲しい事実だが、歌では秀れた作品が生まれるのである。

千代田 秀 夫
玉音に平和が来たと言はせめて半
年早く聞ければ

【選 評】 終戦がせめて半年早ければ、
多くのいのちが失われずに済ん
だ事を嘆く歌である。歴史上の
事実は変えられないのだが、私
も作者の考えに賛同する。

◇ 佳 作 ◇

佐 藤 つや子
いつしかに夏至も過ぎいてこの夏も安
けく過ぎんそんな気がする
布団上ぐ腕の力の失せたるをいたく思
いぬ今朝の床上げ

出来ない事あげつらわずに出来る事数
えて今日も安けくあらん

雨上がり浦の窓より雀の声聞えて今日
の幸先のよし
六月も一日となりぬ七月を待たずに逝
きし療友ら六人

千代田 秀 夫
誰も来ず何処へも行かず独り居の生な
き物といつかもの言う

味噌汁の少し濃くしてもらいたり汗と
り後の風邪の一食

鯛の今年の声は今宵だけわずか一匹
細々と啼く
母の日に色とりどりのカーネーション
子なき妻への甥の優しさ

三キ口の重さに耐えて萎えし足日増し
に力がつくが如くに

今は幾代目かの主夫婦、齢に
かなう山吹の花を愛でながらの
楽隠居。長生きして下さい。



◇ 入 選 ◇

今 野 きよし
山吹を居久根に咲かせ老夫婦

千代田 秀 夫
風鈴の音色に近く白杖二人
【選 評】 風が来ると涼しげな音色を出
すガラスが南部風鈴にさそわれ
て白杖の二人は立ち止まるでも
なく音色のすずやかを昔と変わ
らぬ涼風を楽しむ二人が見えて
くる。

園 永 泊
考えのつかず団扇が手から落つ

【選 評】 居久根と言うと農家の一軒一
軒が幾代も続いて築きあげた我
が城がある。

【選 評】 どんな事を考えつかないのだ
ろうか。大震災の事か福島原発

の収束か、はた又猛暑に悩まされて団扇もいう事をきかない。力がつきたか。考えすぎずに頑張ってください。

◇ 佳作 ◇

齋藤 照雄

踏まれて来てたくまじきかな麦の秋
盆棚へ母の好物まず供え
盆三日先祖の霊と対話かな
どこからか匂い漂う栗の花

小野寺 静男

土台だけ這いつくばって五月雨るる
今日もまた遺体発見五月雨
避難所を転々として五月尽
六魂祭龍馬東北生れかな

今野 きよし

雀の子藪に隠れて鳴いており
最後には列の曲りし植田かな
雑念を流してほしい天の川
おもむろに鈴振る声のクレマチス

千代田 秀夫

祝米寿地酒少々初ガツオ
托卵の巢の見つからずホトトギス
竹竿に終の住処か雨蛙
夏草に人の恋しき無人駅

園 永泊

花よりも誉の小枝揺れるなり
振り向いただけで去りけり青大将
待たせてはど吹く風や吹流し

桃生 小富士

通り雨虹を描いてゆきました

【選評】

にわか雨も通り雨も同じようなものだが、通り雨の響きに情緒がある。雨上りにおもいがけず虹の置き土産。一幅の絵になる作品。



◇ 入選 ◇

齋藤 照雄

にわか雨二人の恋へしつとかや

【選評】

熱くなっている恋人同士へ、少し冷ましてあげようと言う雨。天も嫉妬しているというのが面白い。意外に作者の嫉妬なのかも知れない。

桜山 南仙

諦めてから本当の酒の味

【選評】

酒は憂えの玉箒、と言われるが、深い人生観の漂う作品である。酸いも甘いもかみ分けた人だからこそ、お酒の効用も味を知っているのである。考えすぎずに頑張ってください。

◇ 佳 作 ◇

千代田 秀夫

ステテコの小言が続く三連休
知恵熱の今が盛りやサクランボ
天花粉叩けば孫の大笑い
盆踊り酒の力で踊りだす
夏痩せの遅れがちなる鳩時計
雑炊の一気に飲むや敗戦日

今 野 きよし

草餅をみやげに提げて看護の日
紅白のリボンの躍る看護の日
声かけて笑いを誘う看護の日
愚痴聞いて悩みを聞いて看護の日
慎ましい言葉にほろり看護の日

桜 山 南 仙

煽てられ原稿紙にペン躍る

草の花踏まれながらも咲いた今日
自慢気に余裕の笑窪おいていき
月丸くなるを待ってる月見草
寄り添える肩に絡まる吹き流し

桃 生 小富士

節電が情緒豊かな町にする
園内に絆彩る大花火
虹の端掴んでみたい夢ばかり
妹の面影つるむ目に消えず
バカヤロー返らぬガレキ山

斎 藤 照 雄

義足撫でてお疲れさまと言ってやり
幸せがこんな所に落ちていた
太鼓腹どこへ落としたなあ影よ
何時からか励ます役にまわってた
人生は笑って泣いてまた笑い

自己紹介と金成について

看護師 佐藤 由美子

はじめまして。三月二十二日より第一メーブルケアセンターに勤務させて頂いております。看護師の佐藤由美子と申します。

出身は県北栗原市金成です。国道四号線を南から北上すると沢辺・津久毛・金成地区の広々とした金成耕土を通過すると次第に標高が高くなっていきます。金成の畑地区や荻野地区は川沿いに狭い平地も存在しますが、ほとんどは山地になっています。そんな金成に嫁いで二十二年となり、長男は北海道に居りますが家族六人平穏に過ごしている毎日です。

ここで少し金成に伝わる物語を紹介したいと思います。

平安時代の末の事です。京の都に三条右大

臣という長者が住んでいました。この長者には「おこや姫」という娘がありました。おこや姫は清水寺の観音様を信仰していたので、「私の夫となる人をお授け下さい。」と願をかけました。すると夢の中に観音様が現われて、「あなたの夫はみちのく金成という所に住んでいる藤太というものです。夫婦になると良い。決して他の男と夫婦になつてはいけませんぞ。」とお告げがあつたのです。姫は喜んで遙か遠いみちのくの旅に立ちました。

「もしもし、炭焼き藤太さんという人はどこにいますか。」と聞くと、「こらんなきい。向こうの山道を炭を背負つておりてくるのが藤太さんです。」と教えられました。顔はすすで汚れて、手も足も真っ黒。髪は乱れぼろぼろの上衣を着て、炭を背負つた若者がやって来ました。この人が観音様のお告げの方かと思いましたが、藤太は「狐が馬鹿にしているのだ。騙されなれど。」と信じてくれません。

しかし「藤太さんと夫婦になるのが定めです。」と頼んだのでした。藤太とおこや姫は夫婦となりました。ある日のこと、おこやの前が「姉齒に行つて、米や味噌を買つて来なさい。」と路銀に貰つて来た砂金の一袋を渡しました。途中、荒崎沼でカモを見つけた藤太は砂金のつぶてをカモに打ちつけたので砂金は沼に沈んでしまいました。家に帰るとおこやの前は「米や味噌はどうしたのですか。」と聞いたら藤太は「カモを取るので撃つてしまつた。」と言いました。おこやの前は驚いて「藤太や、何というバカなことでしょう。あの砂金を持つて行けば、カモなど三十羽でも買えるのです。」と藤太に言い聞かせました。すると藤太は不思議そうな顔をして、こう言いました。「おかしいなあ、こんな砂金なら裏の炭焼き釜の後にいくらでもあるぞ。」おこやの前は驚いて藤太と共に山に来てみると、炭焼き釜の後は砂金の山だったので。それから藤太とおこやの前は砂金を掘り、これを都に持つて行き、

帰りはたんものや珍しい品物を都で買い求め、金成で売つたのです。ですからたちまち長者となり、子供も三人生まれました。長男のきち橘は毎年都より『金売・吉次』と言われる有名な人になりました。

金成には藤太と吉次の物語にかかわる跡が多く残っています。藤太夫婦の墓が国道に近い小高い丘にひっそりと建っています。丁度金成延年閣の向かい側辺りにあります。また藤太は山の神を敬い、砂金で造つた金鶏を鶏坂に埋めたという伝説もあります。また、金成は昔は金の生れる里ともいっているので「金生かんなり」と言つた様ですが、いつの頃から「金成」と書く様になりました。現在も「金生橋」とか「金生かこい」という地名も残っています。以上、金成について書かせて頂きました。長距離通勤ですが、この土地の四季折々の風景を楽しみながら一生懸命勤めさせて頂きましたので、入所者の皆様、スタッフの皆様これからもどうぞ宜しくお願い致します。

私の看護計画

看護師 菅原 雅子

看護師になって早三十六年。定年退職まで残すこと一年半。我ながら随分長いこと白衣を着ていたものだと思っている。

東京でスタートした新人看護婦時代に、定年まであと二、三年という大先輩がある日、看護部長から「あなた自身の看護計画はどうなっていますか？」とそれとなく退職勧告を受けたという話を聞いた。子供もいない夫婦二人暮らしで、働けなくなった夫の分もと定年まで働くつもりでいた先輩が、その後間もなく定年を待たずに退職していった。新人看護婦の私の目に彼女は、物静かで多くを語らず、いわゆる患者様とのコミュニケーションもなく、淡々と検温と記録を繰り返す「昔夕

イプの看護婦さん」のイメージであつた。当時の医療はめまぐるしく進歩し、多面性を求められる看護職の世界にあつて、白髪が目立ち、老眼鏡を頼りの真面目さも通用しなかつたのでしよう。それ以来、私の心の中では容姿、判断力、記憶力等色々な意味を込めて「白衣が似合わなくなつたら看護婦は辞める」との思いを強くしていった。

これまでの私の看護婦生活を振り返つてみると二十年以上に亘り新生園にお世話になっており、新生園で育ててもらつたと言つても過ぎない程である。

十八歳で白衣の天使を目指し、当園の准看護学校に入学そして進学以来、昭和五十四年の結婚を機に、再び新生園にお世話になる事になった。当時仕事と子育ての両立は、若いパワーで乗り切り、体重も今より15kgも軽量で、容姿的にも白衣は充分似合つていたと自負している。平成八年に鳴子転勤後三年で戻り、平成十一年に三度目の新生園勤務となつ

た。今となれば懐かしい入居者の皆様とのバトル、ふれあいありで、高齢化対策の一環としてナイトケア開始等々、あっとい間の三年間だった。

その後三か所の病院を経験し、白衣もSサイズから3Lにみごとにアップするにつけ、私の白衣姿にもピリオドを打つ時期を意識するようになっていった。しかし、いざとなると「まだやれるのではないか？今迄と違う経験をやってみたい。」と自問自答があり、なかなか脱げずに現在に至っている。

定年まで後二年となった今年、許されるのであれば、看護婦生活の大半を過ごした新生園で、又名前の如く新しく生まれ変わった新生園で白衣を脱ぎたいと思いつくようになった。思いが叶い、この四月から四度目の新生園勤務が実現し、喜びと驚きの両方をいっぺんに味わっている状態である。九年振りの新生園はハード面もソフト面でも大変良く整備され、スタッフの顔ぶれも若返り、更なる充実を目

自己紹介

看護師 浅野明子

四月より第一メープルケアセンターで勤務しております浅野です。

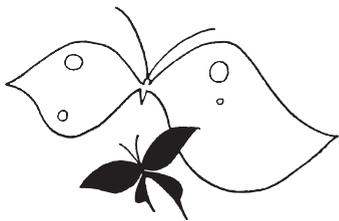
出身は登米市迫町北方で、新生園の比較的近くで、車で十五分位の所から通勤しています。

高校卒業後、資格を持ち働きたいと思い看護師の道を選び、気仙沼の高等看護学校に入学しました。卒業後は仙台の病院で三年間働き、結婚を機に退職しました。夫が転勤族だったのでしばらく専業主婦をしていましたが、平成二年に実家に戻り、瀬峰にある循環器呼吸器病センターに勤めました。そしてこの三月に退職し、新生園でお世話になることになりました。気持ちは二十一年前、循環器呼吸

指し日々頑張っている姿があった。

入居者の皆様も懐かしく声を掛けて下さったり、話を聞いたとわざわざ会いに来て下さったり、暖かく迎えて頂くにつけ「あー、やっぱり来て良かった。」と素直に思う。

私は看護計画もそろそろ目標達成に近づいているところで、職員そして入居者皆様のお力添えを頂き、日々穏やかに、微力ながら私の持てる看護を提供出来る事を切に願うものである。



器病センターで勤め始めた頃とあまり変わっていないつもりですが、歳には勝てず、新しい環境に慣れる適応能力もかなり低下してきております。そのような状況の中で入所者の方々に、あたたかい言葉をかけていただきながら、またスタッフの方々に、丁寧に教えていただきながら、少しずつ慣れ、少しずつ前進しているように感じられる今日この頃です。

まだまだ半人前ですが、早く一人前になれるよう努力していきたいと思っておりますので、今後とも御指導よろしく願います。

わ・す・れ・な・い

看護師 小出法子

「新生」に原稿を依頼され、園長先生にこれまでの経歴を書くようにアドバイスされ、仕方なく記入していました。ところが先日、某テレビ局にて、3・11の東日本大震災の日に起った様々な出来事を「わすれない」というタイトルで放送していました。気仙沼で生まれ育った私は、涙が止まることはありませんでした。そこで、途中まで書いていた私の経歴などは、何の感動も得られないと判断し、急ぎよ、内容の変更をする事にしました。

あの日、私は末子の中学の卒業式で、着物を着せてもらう為、早朝から準備をしたこともあり、一時半頃に終了した式から帰って来

て、きつかった着物を脱ぎ、着替えをして、こたつにもぐり込み「やれやれ、やっと終わった。」とうたた寝をしていた時でした。夢で何かゆりかごのようなものに乗っているような感じで、不謹慎だったけれど、とても安らぐ雰囲気でした。しばらくはそのまま寝ていましたが、明治三十年に築き上げたという母屋の戸やガラス戸、柱が、ガタガタと今までこんなに揺れたことの無い物までが、作法的でもあるかのように揺れ続け、さすがにのんびり屋の私でも寝てはいられない状況と判断し、起き上がらざるを得ませんでした。眠かったのを無理に起きたので、腰をひねり結局動けない状態になりました。テレビをつけましたが、間もなく停電になり、パニック状態となりました。日々ラジオを聞く習慣がない為、震度も何も分からず、夫に連絡を取りました。幸運にもすぐにつながりましたが、さすがに夫は、家の周りの危険物・倒壊箇所がないか確かめるように、おちついて行動するよう言わ

れました。福島にいる長男からも連絡が入り「母さん、母さん大丈夫か？」と緊迫した声で私の事を心配してくれました。その辺りから、この地震はただの地震ではないんだと確信した覚えがあります。

先にも書きましたが、私は昭和三十八年に気仙沼市に産まれました。潮吹き穴で知っている方も多いと思いますが、岩井崎のある階上という地区に家がありました。あったのです。貧乏ではあったけれども青い海で新鮮な魚を食べ、ちょうど今頃の季節であれば、一日中真っ黒になって、海で遊んでいたものでした。カニをとったり、魚と泳いだり、その頃はプールよりきれいな海でもぐり、空を見上げるのが大好きでした。私達にとって海のない生活など考えられなかった。悲しい時や落ち込んだ時などは海をみているだけで、心が安らいでいくのが分かりました。母なる海。私にとって海は生きていくのに必要不可欠なものであり、なくてはならなかった。それなのに…。あの日、地震後停電になり、気

仙沼で起きることが全く分からず、私は練炭を早く調達し暖をとることを考えていたのです…。それが、先日あのテレビ番組を見て絶句しました。家が、船が、車が…、私の大切な、大切な故郷が真っ黒な得体のしれない、見た事もない液体により流され滅茶苦茶になっていくではありませんか。リアルタイムで津波の映像を見るのは初めてでした。見るのも嫌で避けていたからです。実際にも、私が気仙沼へ夫に半ば強制的に連れていかれたのも、五月のゴールデンウィークが過ぎてからの事でした。志津川に行ってみようと誘われ、不承不承に乗り連れていかれました。入谷という所がありますが、景色はその辺りから一変しました。大量のゴミ。あるはずの無い所にある家屋。車。船。時々、仕事などで辛いことがあった時に車をとばして行っていた志津川が…。もう涙があふれ止まりませんでした。建物という建物。木や竹や電信柱。ありとあらゆるものがなぎ倒され、あったはずの景色が無い。気が変になりそう

でした。毎日のテレビで、災害の様子などを見て、免疫力が少しついていたはずでしたが、360度リアルにあの光景をみて、腰を抜かしてしまう程の驚きでした。車は徐々に気仙沼へ近づいてきました。国道45号から、海が間近に見えました。それは、道路と海の間のもので、あの真つ黒い魔物にのみ込まれてしまったから。私は生まれて初めて海を恨みました。呪いました。どうしてこんな事になったのか。実家もその姿をとどめることなく、父母の眠るお墓も、もうありませんでした。辛くて、お墓のあったと思われる場所ですれくらい泣き崩れていたでしょうか。一緒に行ってくれた末子が私を抱きかかえ、車まで連れて行ってくれました。登米市にある家に着くまでの記憶はありません。猛暑が続くなか海に行きたいという気持ちさえ浮かんできません。私は、絶対にあの地震を津波を、滅茶苦茶になった故郷を忘れません。絶対に、わ・す・れ・な・い。

た。それが病みつきになり、年に数回は行っています。次に好きなのが、秋田県の新玉川温泉、ここは、酸性が強くて湯に入ると、皮膚がピリピリとします。源泉一〇〇%の湯や五〇%に薄めた湯船のほか、箱蒸し風呂などがあります。湯に浸かったあとは、一時間位、大広間で休憩して、八幡平アスピーテラインを通って帰って来るわけです。温泉地に居るよりも、運転時間の方がずっと長いのですが、それでも行きたいと思うのです。お次は栗駒山の須賀川温泉栗駒山荘、ここは、露天風呂がいいですね。三年前の内陸地震の後、しばらく行く事が出来ませんでした。道路も開通し、先日、久々に行ってきた。山岳地帯のため、シャワーの出が今ひとつなのが気になるのですが仕方ありません。それから、宮城の名湯、鳴子温泉、滝乃湯や中山平しんとの湯等々、疲れた身体を癒すのに温泉は最適です。好きな事も尽きたところで、自己紹介をさせていただきます。

私の好きな事と自己紹介

看護師 石川 正子

初めまして、四月一日より病棟で勤務させて頂いております石川正子と申します。作文は苦手なので、考えたのが好きなことだったから、何か書けるかもしれないと思いペンを執った次第です。

私は温泉が好きで休みの時など、遠出をして温泉に向かう事があります。なかでもお気に入りには、山形県の蔵王大露天風呂でしょうか、初めて行った時は、ああ、こんな素晴らしい温泉があるのだと感動したくらいです。露天風呂は広大な自然に包まれ、脇は溪流が流れています。乳白色の硫黄泉が最高です。あまり長湯をしない私ですが、この時ばかりは今までにないくらい温泉を楽しんでいます。

私は、南方町生まれで四人兄妹の三番目、女一人で今思えば、他の兄妹に比べ、父にはずいぶんかわいがってもらいました。小学校の参観日に一度だけ来てもらった事がありますが、後にも先にも父が子供の参観日に出席したのは、その時だけだったそうです。小中学校と机に向かった勉強よりは体育が得意で、小学校時代は運動会で徒競走によく出ましたし、中学校時代は体操部に入り郡大会で優勝したこともありました。高校時代は、ソフト部、体操部、フェンシング部を経験しました。今では、とても想像出来ませんが、とにかく、頭をつかうよりは身体を動かす方が好きでした。それは今も変わりありません。高校卒業後は就職を考えていたのですが、何か手に職を持った方が良いと言われ、深い考えもなく栗原市の准看護学校へ、その後、一年間泉の病院に勤務し、進学のため上京、高卒の資格を取得しました。看護学校時代は、関連病院でバイトして学費や小遣いを稼いで

何とか卒業でき、その後、五年を経て平成四年帰郷、登米市の病院に就職し、同年、新田に嫁いできました。

月日が経つのは早いもので、看護師になって二十四年経ちます。飽きつぱく、根性無し私ですがよく続けて来られたなあと自分でも思っています。そして、縁あって東北新生園に就職し数ヶ月が経ちます。まだまだ右も左も分からない事だらけで皆さんに、ご迷惑をおかけしておりますが、入所者の皆様、スタッフの皆様の力を借りながら、良い看護が提供できるよう頑張りますので、「これからもどうぞ宜しくお願い致します。

はじめて

看護師 星

よしえ

今年の四月一日より第一病棟で勤務させていただいております星よしえです。

東北新生園を初めて訪れたのは、看護学生の施設見学のときでした。施設の広さ・池には冬になると白鳥が飛来すること、また建物がどこまでもつづいていました。その中に教会や集会所・郵便局・売店などがあり、小さな町のなかで生活しているのだと感じながら、見学した記憶が残っています。あれから二〇数年が経ち、再び職員として門をくぐる事が出来たことを嬉しく思います。

さて、これから少し自己紹介をしたいと思います。私が看護師を志したのは、小学校一年生の時、祖父が脳梗塞で半身不随になり、

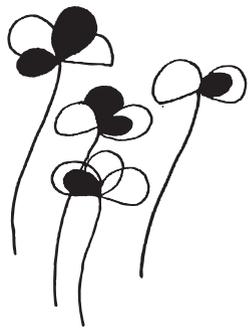
七年間祖母が介護していました。その姿を見ていて私も少しでも人の役に立てる仕事をしたいと思ったのが始まりです。私が生まれた育ったのは栗原市です。地元の高校を卒業し、栗原医師会附属看護学校に進学しました。二年間病院の寮に入り、そしてそこで、先輩から仕事のいろはを覚えてもらいました。寮生活をしていたので、朝六時に起床し診察室の掃除をし、午前中診察の介助、午後から学校に行き夕方まで勉強しました。学校から帰ると診察室の掃除をして一日が終わります。准看護師の資格取得後、一関の看護学校へ進学しました。夕方まで働きその後は、夜間の看護学校に通いました。一時間目の授業は眠りわるとおやつを食べ、二時間目の授業は眠りとの戦いでした。そんな中でも沢山の友達に恵まれ、みんなで励ましあいながら勉強・実習に駆け回りました。そして看護学校を卒業と同時に栗原市の病院に就職し二十一年間勤務しました。

その間に、結婚し三人の子供達に恵まれました。上の子は、今年の春から東京の大学に行き、家を離れちよつと寂しくなりました。二番目は高三になり、末っ子は女の子で五年生になりました。子供達三人は小学校からソフトテニスを始めます。試合があればみんな応援に行っています。そのため、日焼け防止には苦労しています。

やつと、子供達にも手がかからなくなってきたのを機に、庭には花を植えたり、野菜を作ったりして過ごす時間が持てるようになりました。今年もプランターに鮮やかな赤やピンクのベコニアが咲いています。厚い夏の日でも元気に咲いているベコニアの花をみると自分も元気に頑張らなければいけないと思います。また疲れているときなどは、元気に咲いている花を見ると心が癒されほつとします。畑には茄子・胡瓜・トマト・ピーマンを植えました。胡瓜・トマト・ピーマンは大きく実をつけ収穫しましたが、茄子は今年も上

手に育てる事が出来ませんでした。上手に野菜作りができ、新鮮な野菜を食べ家族みんなが健康に生活出来たら良いと思っています。

入職して四ヶ月が経ちますが、まだまだ、気持ちに余裕がなく慣れていませんので、皆様にはご迷惑をおかけするとは思いますが、皆様のご指導を受けながら、一日も早く入所者さんの名前を覚え頑張っていきたいと思えます。これからよろしく願います。



その景色も変わってしまったことと思いません。いつか再び素敵な景色に戻ると信じています。

さて、私は石巻を飛び出して、仙台医療センター附属仙台看護助産学校に入学し、そこから四年間仙台で暮らしていました。看護師になりたいという強い気持ちで看護学校に入學したわけではありませんが、入学してから学校や実習先で出会った方々のおかげで看護の楽しさややりがいを感じる事が出来たということが今につながっています。就職してからはますます新しいことを覚える楽しさや忙しい中でも患者さんとの関わりが楽しくて仕方ありませんでした。

そんな中、結婚を機に登米というところをやってきました。道も分からず、はじめは家に帰るのも大変でした。出産するまでは仙台まで通勤していましたが、子供が生まれてみると、子供を置いて通勤することは難しく、退職しようと思いました。その時に東北新生

はじめまして

看護師 相模 夕貴

四月一日より東北新生園第一メープルケアセンターに勤務しております。看護師の相模夕貴です。東北新生園にやってきて四ヶ月が経とうとしていますが、まだまだ分からないことや慣れないところがあり、皆さんにたくさん助けられながら毎日を過ごしているところです。

ここからは私の自己紹介をさせていただきますと思います。私は生まれも育ちも石巻の蛇田というところ です。石巻というところは海や川に包まれた地域なので、磯のかおりがすると雨が降るといわれています。また、日和山というところからは市内を一望することができます。しかし、震災の影響ですっかり

園を紹介していただいたのです。どんなところか全く分からずにやってきてみると、広大な敷地と池や立派な建物が森の中から出てきたような印象を受けました。この土地を入居者の方々みんなで作りました。この土地を入居することを聞いて、さらに驚きました。入居者の方々は実際の年齢より若く元気な方が多くて、逆に私がパワーをもらっています。私からも少しでもみなさんに恩返しできるように毎日を過ごしていきたいと思えます。

まだまだ皆さんにご迷惑をおかけするかとは思いますが、ひとつひとつ覚えていきたいと思えますのでどうぞよろしく願います。

第28回
高松宮記念杯近隣
親善ゲートボール大会
(選手宣誓)
—平成23年6月22日—



◀ 「睦橋 (むつみばし)」 渡り初め
昭和29年につくられた睦橋が、
大型バスが通れる幅の橋につくり
かえられました。
完成にあたり園長、自治会長、
幹部職員、入所者の方々が渡り初め
をしました。
—平成23年7月20日—

元副園長 森芳正先生提供
による花火大会 (イベント) ▼
—平成23年7月23日—



今年も沢山のご来場を頂きました。